

愛知県犬山市 犬山城下町

町は戦国時代（1467-1568）から、平和な江戸時代（1603～1867年）に繁栄した商人の町へと発展していきました。今日では、国内外の人々が町を訪れ、保存状態の良い歴史を体験しています。

1537年に犬山城が建設された結果、町は商人や職人を惹きつけ、その人口のニーズに応えるようになりました。後に13の地区になり、メインストリートに沿って住宅が建てられ、周囲に武家屋敷があり、城が地平線上にそびえ立っていました。現在も同じ構造が存在しています。

木曾川の肥沃な土壌のためにこの地域は栄え、川を通って主要港に輸送できる木材、および川を使用する船に城主によって課せられた税のために、この地域は繁栄しました。明治時代（1868-1912）に、製糸所などの軽工業が栄えました。町と城は第二次世界大戦中に戦災を免れました。

城壁から続くメインストリートの本町通りは、江戸時代と同じように見えます。軒の低い木造の瓦屋根の建物があります。1597年に設立された酒蔵である小島家住宅など、これらの城下町内にある元々のビジネスのいくつかはまだ存在しています。着物やお茶を販売していた商人の家は今では小さな博物館です。都市計画者は、これらの建物を維持し、本町通りと魚新通りに沿って電線を埋めることで、長年にわたって伝統的な雰囲気を持続するために努力してきました。

1635年に始まり、4月の最初の週末に開催される町最大のイベントである犬山祭では、伝統的な雰囲気を感ずることができます。この祭りは、ユネスコの無形文化遺産のリストに載っています。